十四日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵　税　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京二〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森　合　英

眞劍な指導を希む

武藏山人

平市常會は結成されて以來會を重ねること三回、最近常會委員間には「こんなくだらない常會なら今後は出られない」實際馬鹿氣て話にならんと不謹心極まる暴言を吐く者さへある。くだらない常會の意味は何を指すのか判らないが、想像するに、下部組織を啓蒙する纒つた意見も出ず、井戸端會議に終つてゐることを告白してゐるものではあるまいか？事實市常會は最初の會合で取上げたのが生活刷新を主題に「冠婚葬祭」問題で、結局有耶無耶の裡に解散したやうである。第二回、第三回共抽象的な問題を論議し合つたのみで何等の收獲が無かつたやうである。

斯くの如く市常會がダレ切つて、滿足に下部を指導することが出來ないのが原因でもあるまいが、各所の隣り組が議論倒れとなり、或ひは感情的に衝突して隣保扶助の精神どころか、却つて喧嘩に惱まされてゐる組も尠くないと聞く。一億一心翼賛体制が叫ばれてゐるとき、甚だ遺憾である。

斯くの如く下部組織內に緊張を缺く行爲を見受けるのは〃下、上にならふ〃の俚諺のやうに、當局の指導方針が一貫せず、常會又前述のやうにダレ氣味の氣配にあることが大きい原因であらう。

この意味に於て、指導的立場にある常會委員は自棄的行爲を嚴に謹み勿論徒らに風呂敷を廣げることもやめ、何人にも容易に行ひ得るやうな事柄を一歩づゝ前進、ダレる間隙を生じないやう眞劍に指導することを切に希むものである。

僕が一生を賭けた文學の道は戰場と同じです（村上元三）

鄕土研究

（四）

岩崎敏夫

それから我々の常に困らされる問題は、同じことを繰返して聞かせられ讀ませられることである。方言にしても昔話にしても、又かと思はれる同じ話が多くの本にあとからあとから出てくる。方言でも何んでもないものが、我村の特殊語顔して出てゐたり、同じ町に居ながら知らぬばかりに苦勞して同じ様な方言集を出してゐる例もあつたりして、横の連絡といふことも常に考へさせられる問題となる。已の研究に扉を立てずしかも要らざる勞力は省いてそれだけ有効な仕事をしたいものと思ふ本當に鄕土を見るならば、わが鄕土といふものを正視した上で、各地の事情を比較し檢討して見る。すると自からそこに鄕土の眞の姿がはつきり浮んで來るに相違ない、わが住む里の位置方角をたしかめる爲には、高い山に上つて他所の地方をも眺めねばならない。例へばジャンガラ念佛は平にだけあるのではない九州にもある。四倉の火打合はこゝの專有物でない。磐城にさへ數ケ所ある年占の一種だといふ事がわかつて始めて、念佛にも火打合にも却つて價値が出てくるのである。磐城の山の中にある小さな昔話が、符節を合する様にしてドイツの片田舍に存在したとて、直ちに輸入とも偶合とも簡單にきめてしまふことは出來ぬのである。

同様の若しくは似た様な例を全國に集めて、其處から出てくる本當の日本人の生活を見る爲に私共は少しばかり苦心して來たのであるが、同志の人々の一人でも多くなつて鄕土人自身の力で土地の精確なる採集記錄をつくり、自分の愛する町や村がそれだけ明るくなる日を望みたい。鄕土研究といふ言葉も柳田先生によつて用ひはじめられてから三十年近くなつた。我々の研究も單なる研究にとゞまらず町や村をより明るくする爲に日本の國をよりよくする爲にといふ所まで進まなくては、進ませなくては本當でなからうと思ふ。（完）

『送別短歌會から』

小山田滋氏

○

やがてまた逢ふ日をせめてたのみつゝ今は別れの歌よみかはす　野本多霞夫

○

師をおくる春の宴はあかときの雲しらむまではてしらぬらし　金成きみ子

○

柿ひとつテーブル掛の靑き羅紗に幾日か置きてこころなぐさむ　鈴木一郎

○

産業の第一線を統ぶる君御國由々敷日をたけくませ　柏木哲

○

わかかりしまだふとりありこの朝餉大根汁のチルチルなるも　鈴木謙四郎

連續講談

異說赤穗浪士

（148）

桃川若燕

畫　城木喬

吉良邸へ

幕府に對する討入りの趣意書には、

淺野內匠頭家來口上、去年六月內匠頭儀傳奏御馳走の儀につき吉良上野介殿へ意趣を含み罷り在り候處殿中に於て當座忍び難き儀御座候て刄傷に及び候、時節場所を辨へざる働き、不調法至極につき切腹被仰付城地赤穗召し上げられ候儀家來共まで恐れ入り奉存候、上使の御下知を受け城地差上家中早速離散仕り、右喧嘩の節御同席に差止めの御方有之、上野介殿討留不申儀內匠頭末期殘念の心底、家來共忍び難き仕合に御座候高家歷々に對し、家來共鬱憤を挾み候段憚りに存奉り候、君父の讐共に天を戴かざるの道理、もだし難く、今日上野介御邸に推參仕り候、偏に亡君の意趣を繼ぐ志までに御座候、私共死後若し御見分の御方御座候はば御披見奉願候、斯の如くに御座候、以上、

元祿十五年十二月十四日

淺野內匠頭家來

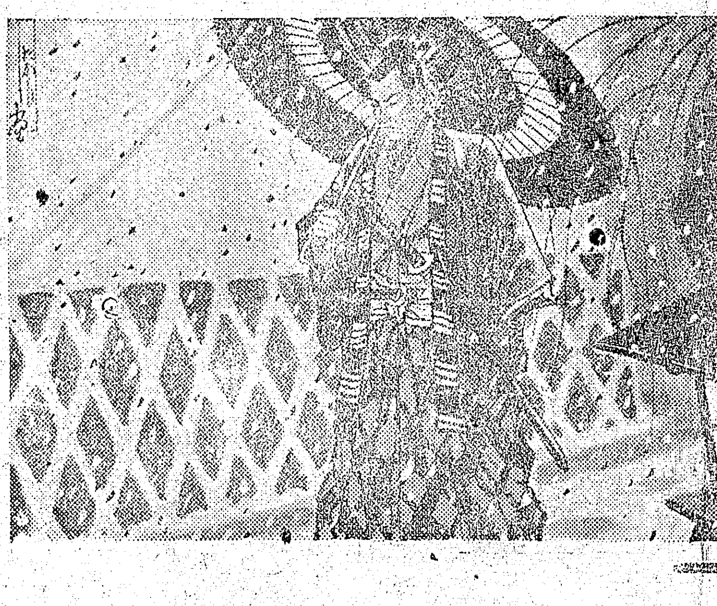
と云ふのであつて、その後へ大石始め同志一同の姓名を記したもの、

『萬端の用意整ひ居ります』

との吉田の返事に

『では追々と出發致さう』

と同志一同は直に仕度にかゝつた。同志の內にも若いは緋紗綾の褌、老人連は同じ白の褌、肌衣は白無垢、或は淺黄無垢などを重ねこれは俗に云ふ鎖帷巾、又股引にも鎖を包み、散らし紋のある伊賀綾帶の上にも鎖入りの上帶をして脛には脛當、脚には陣草鞋この上に一着したのは黑羅紗の羽織、用意が出來ると表門ゝ裏門の人々を分けた。表門は大石を除いだ二十三人のうち原惣右衛門元辰が指揮役、總勢を三組に分け本隊は片岡源五衛門高房、富森助右衛門正因、武林唯七隆重、奥田孫太夫重盛、矢田五郎右衛門助武、勝田新左衛門武堯、吉田源右衛門兼貞、岡島八十右衛門常樹、小野寺孫右衛門秀高の九人。又早水藤左衛門滿堯神崎與五郎則休、矢藤右衛門教兼、大高源吾忠雄、近松門六行重、間十次郎光興の六人は別働隊とし、外に堀部彌兵衛金丸、村松喜兵衛常秀、岡野金右衛門包秀貝賀彌左衛門友信の四人は更に別隊として下輩小者に當ることゝした、この中には横川勘平宗利が參じないが遲れ馳せにも參つた節はこれに加へるとしてある



表門口大將は大石內藏之助良雄副として原惣右衛門、間瀨久太夫正明がある。

またうら門はと見ると磯貝十郎左衛門正久、堀部安兵衛武庸、倉橋傳助武幸、杉野十平次次房、赤垣源藏重賢、菅谷半之亟政利、大石淸左衛門信淸、村松三太夫高直、三村次郎右衛門包常、寺阪吉右衛門信行の十人が一隊を作り、大石主税良金、潮田又之亟高敎、中村勘助正辰、千葉三郎兵衛光秀、茅野和助常成、間新太郎光風、木村岡右衛門貞行、不破數右衛門正種と前原伊助宗房、小山田庄左衛門良成、この十二人が別に一隊となり、吉田忠左衛門兼亮、小間寺十內秀和、間喜兵衛光延の三人が指揮者兼別働隊としてうら口から逃げ出す者を斬つて棄てる役目を持つことゝなつた。が時刻切迫しても黨中の横川勘平に小山田庄左衛門の二人が來ない、大石も

『先夜横川よりは書狀が參つてゐる故、遲れても馳せ參ずるであらうが、小山田は日頃より、意志弱き者或は不參、黨中を脫するかも知れぬ、しかし玆に至つてはそれ等を眼中に置いてはならぬ。支度がよくば打ち立つやう』

下知をすると老いも若きも只無言の中に杉野十平次宅を出で、霏々として降り頻る雪を衝いて松阪町の吉良邸へ

謹告

定休日　每月二回（第一日曜日 二十日）
從來每月二十日を公休日と定めて居りましたが新体制に即應し、店主店員の修養日として新たに第一日曜日にも休業することになりました

貸賣廢止
凡ての取引が現金化致しましたから在來の掛賣通帳賣を廢止することになりました御諒承願ひます

公定價格嚴守
販賣商品の價格に疑はしき點ある場合、遠慮無く當事務所電話二二三番へ御問合せ下さい

昭和十六年二月
平市田町銀座通り
平菓子商業組合
電話223番

債券、公債
兩替、金融
多田井質店
平市大工町　電話五九一番

齒科一般
佐々木齒科醫院
日本齒科醫學士　佐々木三郎
泉村小學校前　電話一番

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）
電話三七〇番
振替仙臺五一番

▲男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二二七番

ハピマーチ
專賣特許
美味しいビタミンの[illegible]
五十錠入　一、一〇
百錠入　二、〇〇
徳用罐　五、〇〇
特約店　平市五丁目
山野邊藥局

レストラン
サロン
食事。喫茶。酒場を兼ねた。
營業時間
開店…午前十時　御食事は午前十一時より。
閉店…午後十一時限り。
平市銀座街
電話五九二番

募集
三輪車（オートバイ）運轉手見習
年齡　高卒程度の十五—六才位意志强固なる少年
待遇　本人來談、面接の上決定す
平市新川町角
佐藤石炭店

平　四倉
往復券2割引40錢
▽新舞子　約三丁
▽仁井田浦　約二丁
▽四倉海岸　約一丁
▽波立藥師　約八丁
▽鰐ヶ淵　約八丁
團体は特に御相談に應じます
電話三七〇
合名會社　平、四倉・乘合自動車

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案　メモ板　第二七九〇四號
野球ベール　第二七九七三號
興亞ノート　第二四七九八號
專賣特許　興亞厚紙　第（イ）二七三六〇號　第（ロ）二七三六一號
合資會社　興亞特許商事
同工場　月見町三三

タンス・鏡臺
御婚禮調度品を取揃へました
是非　和　和久井屋へ
御越し下さい
平市一丁目（電話四〇五番）

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關內正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一六番

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店　比佐政種
好條件で外交員募る

(大)の削節
冷凍魚、鯨肉、ハムソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目　電話二二八番

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町
鵜沼孝昌

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板
ベニヤ板、建具材
木羽、便利瓦
建築木材一式
織田材木商店
平市　電四九〇番
磐越東線赤井驛前
（大作場）電二三五
製材工場

設備一式
巴式風呂釜
大谷建材店
平市紺屋町　電三六六

種の味
營養調味
醬油、鰹節、砂糖の經濟
極く少量の〃味の種〃を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます
△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯
△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【二合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】
代理店
白菊酒店
平市田町【電話五四番】

高級林檎酒
ミユキ
釀造元　靑森縣弘前市　株式會社　御幸商會
福島、茨城販賣元
石井德重商店
久の濱町　電話三二番

政治家の道

本社座談會　助川代議士講演

本社主催助川啓四郎代議士の時局座談會は昨報の如く十三日夜七時から平市公會堂日本間に於て開催した、折惡しく六時頃から降雨に見舞はれ出席者の出足をくじいたが、

青沼平市長、伊藤飯野村長蓮沼、闘內兩縣議、菅本、藤田、大嶺、鈴木市議、長谷川市教務、四家兵事兩課長初め警防團幹部、農業關係者等熱心な聽衆八十餘名を數へ盛會であつた、定刻本社野澤主幹開會を宣し、參會者一同起立して宮城遙拜、蓮沼縣議本社を代表して開會の挨拶を述べ助川氏を紹介、拍手に迎へられて登壇、先づ大政翼賛會結成について『突如生れたのでなく滿洲事變以來機運が動いてゐたものであり必然的なものである』と動機と經過について詳述し、臣道實踐について古事記を引用して、外國には絶對に例を見ぬ『國体と臣道』を强調

大陽系に歸一する星座と同じやうに我國は皇室に國民が歸一してゐる、政治の如きも外國の如く權力を以て行ふことは間違ひで

みそなはす

聞しめす

知ろしめす

と云ふやうな下意上通の天皇親政であつて、所謂政治家の道は國民を指導する、そして國民は皇室のために働き、聖慮に對し奉る

これが政治家の行ふ道である政黨の解消と政治家の覺悟を諄々と說き、政治は大政の翼賛に依つて行はれたものであると新体制と政黨問題を論じた

新体制と商人道

翼賛會は飽まで助長せよ

助川代議士の講演は政黨無用論から轉じ商人道德問題に言及

自由主義の盛んなときには商人の儲かることを惡い事と思はぬばかりか、安いとき買ひ集め、品不足のとき高く賣つて儲けることが商人道であり、腕がよいとか目先がきくと賞讃されたものであつた、斯うした行爲は新体制では非難され、物資の不足につけ込んで不當な利潤を生むことが個人主義、自由主義と排擊される個人主義を戒め、翼賛會の問題に對しては『如何なることがあつても翼賛會を潰すことは絶對に出來ない』と前提し

翼賛會の將來については國內ばかりでなく諸外國が最も注目を拂つて居り、內閣の瓦解から更に國論不統一を暴露され、外國の侮りを受けるやうなことになるから飽まで發達を助長すべきである

內地の食糧確保し外米依存防ぐ

戰時体制下の增產計畫發表

農村問題に關しては熱意を帶び『何故食糧增產と節米を行はねばならぬか』を次の如く詳述、聽衆一同に尠なからず感銘を與へた

一昨年は國內產米が非常に豊作だつたのに何故米が足りなかつたか？第一原因は消費が著しい激增振りを見せてゐること第二は朝鮮の大凶作に依る內地移入杜絕であつた、台灣米も消費增加から移入が減じた結果である、一般に事變以來內地の收獲が減じこれが爲節米しなければならぬのだらうと信じてゐるやうだが、我國に於ては長期戰に亘りながら食糧は少しも減產せず諸外國を驚かしてゐる、十五年度米は農林省の統計には三百萬石減收と發表されてゐても玄人筋では平年作以上と見て居り、本年度產米の不足に對しては補充するだけの外米輸入案は出來てゐるから食糧に不足の心配ないが戰時体制下に於ては努めて金貨を外國へ支拂はぬやう、外米移入防止策に國內では努めて消費節米すると同時に增產を確保することが急務である、この爲政府は三千萬圓支出して部落團体活動資金に一ヶ年百五十圓宛補助金を出し共同作業を奬勵一ヶ町村十名宛の篤農家を囑託一人五十圓の手當を支給先達と成つて指導させる、又技術員に對しても毎月十圓の臨時手當を給與充分活動出來るやうにすることになつた、これに依つて收獲率の低い水田を平均率に引上げて增產し外國に依存しないやう一億一心と成つて食糧問題を解決することが肝要である

木炭の確保に

縣と營林署が懇談

國有林拂下げ增產案成る

去る九日午前九時から林產物檢査平支所に於て縣孕石山林課長東京營林局經營部長等が出席して、平營林署側と十六年度の木炭增產計畫について左の申し合せを行つた

1、縣および營林署は計畫製炭を强化のため國有林炭材拂下げに當り慣行特賣、地元稼用特賣實績を有する業者への特賣を優先せしめる方針をもつて年度はじめにその處分先を協定すること

2、特賣を受けるものには特賣箇所、數量、拂下げ契約豫定日等を早く知らせること

3、十五年度以前の拂下炭材で十六年度に持越し製炭するものには製炭の促進を圖らしめ十六年度拂下げ持越し資材を基礎とし勞力に應ずる必要量の範圍とすること

4、計畫製炭を完遂するため縣はガソリン、種油、石油、馬糧、ゴム足袋、釘、針金等必要なる資材の適切なる配給計畫を樹てこれが遂行に努力すること

5、縣は林產勞働者の賃金統制を急速實施し勞力の需給調整に資すること、その他

時局下明朗篇

磐中から兄弟揃つて幼年陸士通過

勿來・古川部長さん鼻高し

磐城中學校一年生古川剛君は去る十日の陸軍記念日に陸軍幼年學校に合格の通知を受けたが、剛君の兄さん治君は同じく磐中四年生から去る二月十一日に陸軍予科士官學校に合格の通知を受けてゐる、難關中の難關とされてゐる幼年校を一年から、陸士へ四年から兄弟そろつて通過したことは全國でも珍らしい話で、時局下にふさはしい明朗な話題を提供してゐる

この治君剛君の兄弟を生んだ時局の御兩親を調べると勿來町の部長巡査派出所の巡査部長古川節藏さん、兩兄弟とも嚴格な家庭にあつて評判の親孝行者である

公立中等校巡り（亖）

立花校長に期待する實社會の體驗

縣立平工業の卷【下】

【立花校長】

工業の校長室は磐中の應接室を改裝したものである。職員室は磐中の事務室のあとだ新設校だけにその校に於ける古參教員も別にないだらうから先生方の氣持もそろつて好いだらうと思はれる。山崎先生の紹介で校長先生にお目にかゝる。丁度御授業から歸つた所であつた。

率直に印象をいふと初對面ではあつたが、何かしら暖い親しみを受けた。何故かといふと校長くさくなかつたからだ。生々とした人間、立花の臭を遠慮なく發散してゐるやうに思はれたからだ。校長らしい校長でないからいふことも態度も素直だ、偉ぶらうとか飾らうとかしない、ぶつきら棒にも見える。履歴を伺つて見ると仙台工高を出て秋田から兵庫の生野、久原礦業といふ具合に實社會の中を步いて來て、大正十四年更らに東北帝大を出たといふ教員としては變つたコースを辿つて來て居る。學校を出るとすぐ教壇に立つて職員室と教場以外の社會を全然知らぬ先生も純眞で結構な所もあらうが、孔子樣のやうに實社會の苦がい經驗を積んだ先生もまた尊いではないか。いや現代の教育界に清新の氣を注入して潑剌さを與へようとするならばもつとく毛色の變つた先生を入れて見たら好いだらうとは自分の持論である。さて立花校長のお話を紹介しよう。

「平市民各位の協力援助により多大の期待をかけて生れた本校であるから、自分はその期待を裏切らぬやうに誠心誠意やつて行きたいと想つてゐる。創立校長としての責任も重いし、苦勞もあるがまたそこに一日く と成長して行く學校の姿を見るといふ愉快さもある。

口先だけで實行力のないといふことが現代人の通弊だから自分は此の點に注意を拂つて實行力のある意志の强い自信を持つた人間を作つてゆきたいと思つてゐる本校の生徒には先づ形から心へといふわけで、形の方面の禮儀といふことをやかましくいつて先生方にも特にお願ひしてゐる、その結果相當好くなつて來て居ると思つてゐる」

本校は電氣科四十名、採鑛冶金科三十名の生徒を每年採用してゐる、授業料は四圓である、立花校長の受驗者への言葉を傳へよう、

「考査は廿五、六、七の三日間行ふことになつてゐるが身体檢査体力考査はお醫者さんの都合に依り始めの方にやるかも知れぬから志願者はその準備をして來てほしい。色盲や極端な近視は學校の性質上不採用となるからその點をあらかじめ承知してほしい。昨年はこのことを知らずに本校の考査に就いてあとになつてから問ひ合せに來た者があるから此點をはつきりいつておく」

座談會の收獲

眞劍な應答に傾聽

講演は別項の如く政治、經濟農村問題等一時間四十分に亘つて熱心に述べられ、同八時四十分から座談會に移つた

伊關房次さん『蓮沼門三さんの修養會と扶翼會はどんな關係にありますか』

助川代議士『私は早くから蓮沼さんと親交あります、扶翼會の禊は修養會よりも一歩前進と云ふところでせう。直接には關係ありません』

柴田武雄さん『產業組合と農會は統合出來ませんか』

助川代議士『僕が反對して出來ないことに成つたので大變恨まれてゐるやうだが政府は統合のための統合を行なはんとするから、繁雜となつて却つて能率を阻害することに成る、農會へ山林會、水產會、畜產會その他凡ての產業團体を一元化し更に國策會社と結びつけようとする計畫は根本的に誤つてゐると思ふ『產業自治で進む』これが私の持論です』

柴田さん『農會と產業組合を一處にしないと農村の發達に困難を招來するのですが何とかなりませんか』

助川氏『農會と產業組合は當然一處にすべきでせう、これは必ず實現させます』

片倉玉井さん『食糧增產問題についてお話しを伺ひましたが奬勵方法として功勞者を表彰するやうな方法をとられたら如何でせう』

助川氏『產業勳賞のやうな表彰規程を設ける必要があると思ひます、實現に努力致しませう』

菅本庄司さん『大豆の不足から農村では味噌を作れず市場から買つてゐる、ために市場の味噌が缺乏するので實績のない農村へは賣らないことになります、農村の自家用味噌問題は重要ですから大豆の特配を御盡力願ひます

助川氏『良く實情を調査して御期待に添ふやう努力しませう』

菅本さん『關西地方では大豆を代用食にしてゐると聞きますか……』

助川氏『大豆粕を肥料にするのはもつたいない、と云はれますが、余程食料に困らぬ以上其處まで行かんでせう』

佐川三良さん『木炭の供出に政府が一俵十錢宛の補助を與へてゐるさうですが』

助川氏『前にはやつてゐたこのため民間の木炭が配給減を見たとは云へないでせう、この奬勵金も三月十五日で廢止されます』

其の他各方面から有益な質問あり九時五十分頃青沼市長の音頭で萬歲唱和有意義な座談會を閉ぢた

飼料難に對處

石城產馬の代用食案

年產數百頭を算する石城產馬組合では去る十二日區長會を開いて明十六年度豫算の下協議を爲した、右に關する評議員會は來る十九日午後一時から總會は廿日午前十時より開かれる筈で新豫算は前年と大体同額の一萬九千餘圓の如く新事業として見られるものに豆粕、麩の類が入手難の爲め此の代用飼糧に乾草採取を奬勵することが骨軟症の豫防にもなり自給肥增產にもなると云ふので約三百圓を計上されてゐる、尙ほ事業の上に本年から改められるものは市場に出駒に對し組合から羅市場に於ける價格證明書を出すことになつたものでこれに血統證明並に馬籍謄本を附される結果原價が判つきりするので馬價に不正が出來なくなり、原喰への加算は羅値の後に飼養管理したる費用だけは差支ないことになつてゐるが郡內の駒せり市場に於て每年二百數十頭に及ぶ中寺市場は假性皮疽馬の發生で廿八日からの開場が出來なくなり此の善後策も講じられる筈である

大陸移入の傳染病で中寺市場延期

永戶箕輪で臨時市場申請

石城產馬組合の中寺市場は別項所報の如く來る廿八日から開場の筈を馬匹の法定傳染病假性皮疽のため同市場區域のうち三坂、澤渡二ケ村が出入を禁止されてゐるので右解禁まで延期されるものゝ如くである、同傳染病は我が國には余り見られなかつたものであるが昨年十二月同地に發生したる原因と見らるべきものに大陸から歸還した牝馬を借りて種付を行ひ仔馬を他の馬匹と共に放牧したことから傳播と見られ支那方面には多く同疾患馬を數へられてゐる模樣であつて前記初發の病馬は既に斃死してゐるが病菌の潜伏期間を二ケ月乃至四ケ月と云はれてゐる關係からで同市場區域の無病地である永戶、箕輪兩村では例年の市場曳出しを望んで居り其のため組合では廿八、九の二日間永戶村地內に臨時市場の申請をなすべく來る總會を經て其の手續きを取らうと考慮されてゐるが縣でもこれを認めることになるであらうと見られてゐる

籾摺の台帳

概して良好

食糧重要部門に注意

昨日午前中平警察署會議室で行はれた籾摺業者の台帳、精算書その他の檢閱後、午後一時から安島所長、久和署長、酒井組合長の講評訓示指示等が行はれたがその結果に就いて、縣農產物檢査平支所では次のやうに語つてゐる

從來は町村役場や產業組合等で行つて居り、今回のやうに全部を集めて檢査したことは始めてである。台帳には月日、住所氏名、玄米數量等を記入する事になつてゐるのだが、記載不充分で始末書をとられた者が三十名程あつた。しかし一面なかく好く記入してあるものもあつて概して成績は好かつた、籾摺業者は食料の生產成績等を知る上に大事な仕事を擔當してゐるのだから此點を自覺してやつてほしいものである

軍事援護講演

廿四日磐女で

軍人援護會縣支部では來る廿四日午前十時から磐城高等女學校に愛婦、國婦、女子青年等の婦人團体約三百名を集め軍事保護院囑託、前東京女子高等師範學校講師鷲尾幾子女子の「時局認識と軍人援護」に就いての講演會を開く

豫算市會

一般質問を終つて

委員會附託

平市明年度豫算案審議する返り初日は十四日午前十時半開會、豫算案に對する一般質問を行なひ豫算並に前年度決算委員を選んで散會した尙委員會は十五日から開き日曜日も休まずに一氣に審議を進め十七日本會議を開く豫定である

荒木大將迎へ時局講演

十九日磐炭記念館で

荒木貞夫大將は炭礦視察のため十八日來平し午後四時半から磐城炭礦視察、同夜住吉屋本店一泊、翌十九日午前九時から磐炭淺野記念館で同礦從業者を激勵し時局講演する

銃後の資料で前線慰問

四倉町鷄鳴會の計畫

四倉町鷄鳴會主催　同町出征軍人に對する慰問會報編纂第一線の勇士へ送る事と成つたが會報編纂の資料は主として同町の產業教育方面から集めるもので本月末日までに〆切をなし四月早々發送する豫定である

歸還のお禮

銃後會へ寄附

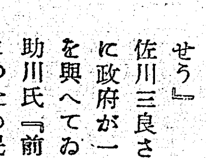
四倉町字原田細目政雄君は此程歸還記念として四倉町銃後奉公會に金拾圓を寄附した

△△△街の話題

【投稿歡迎】

⚑小型債券が出ます

新年度の國民貯蓄額が百三十五億圓目標と決定、これを今年の百二十億に比較すると十五億圓の增加振りですこの尨大な貯蓄を國民にして貰ふため政府は屢々問題に成つてゐました小型の〃報國債券二圓券〃を發行することに決定しました、割增金は今年發行の報國債券同樣最高額千倍の二千圓で保管などの點を考慮し今年の五圓、十圓券の半分位です、四月早々街頭に進出して洋品屋、煙草店などでも手輕に購入出來るでせうから債券報國を切にお奬め致します



舊　二月十八日

土曜　壬戌　先勝　危　胃宿

新　三月十五日

▲一白　萬事蹉跌を生じ易く福祿薄き日起業開店凶

▲二黑　乘氣になれば首尾全からざる事あり退守吉

▲三碧　計畫の順調に捗らぬ日焦りて窮境に落入る

▲四綠　無理難題の起り易き日內外の親和を吉とす

▲五黃　自尊心のみ强くして敬遠せらるゝが如き日

▲六白　頭を擡げて伸び行く日力を注げば功を奏す

▲七赤　策士策に倒るゝの恐れあり只精力あるのみ

▲八白　損得づくにて事を企てず實意を以て立てよ

▲九紫　既定の業務に專念すれば繁榮を呈すべき日

天氣豫報

今晚　北の風小雨

明日　北西の風次第によく成つて曇り勝ちです

（十五日）

滿潮　前六、一五　後五、四〇

干潮　前二、三三　後二、五〇

快適な筆觸
ウエル萬年筆
金貳圓より數十種
佐々木のガラスペン
一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です、一度の御使用が永久の御愛用となる事請合
代理店　文　魁文堂
平市學校坂下
電話三一三番

電話番號變更
新番號は『370番』
合名會社
平四倉乘合自動車
電話三七〇番

新体制下の女性に
◎社會待望の高尙なる婦人職業
◎又は日赤志願の準備として
產婆看護婦をお奬め致します
三十六回　生徒募集
◎今申込の時期
平　南町　產婆看護婦學校へ
平產婆看護婦學校
電話三〇七番

從業員募集
求人者　平市字佃町三　東北木工興業有限會社
求人數　男一〇〇名　女一〇名
職種　建具指物工及雜工
給與　男子日給一圓五十錢以上三圓五十錢迄　女子〃八十錢以上一圓五十錢迄
經驗者初心者共ニ歡迎
希望者ハ履歷書持參左記ニ申込ノコト
平市田町
平國民職業指導所
電話五六二番

日の出醬油
釀造元
小名濱町（電話二十九番）
綠屋商店
千代田生命保險相互會社
富國徵兵保險相互會社
日產火災海上保險株式會社
代理店